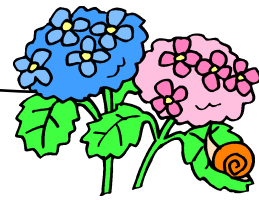


# くめなん



令和4年6月27日  
久米南中学校便りNO3  
校長 下山 洋

## 3年ぶりの修学旅行

一昨年、昨年と新型コロナウイルス感染症のため中止になった3年生の修学旅行ですが、今年度は感染症対策を十分に徹底して実施することができました。2日目、3日目は雨の影響を受けることもありましたが全員元気で予定されていた平和学習などの行事を無事に終えることができました。出発まで生徒の体調管理に気をかけていただいた保護者のみな様、本当にありがとうございました。



## 美作総体開催！

6月24日（金）～26日（日）の3日間の予定で今年度も美作総体が開催されました。県総体の予選でもある大会です。出場した選手たちは玉のような汗をぬぐいながら一生懸命にプレーしていました。3年生にとっては最後の公式戦でした。悔いのないプレーができたでしょうか。今大会は競技によっては有観客で実施され久しぶりに保護者のみなさんの熱い声援が会場に響いていました。大会の結果、剣道男子個人で県総体への出場権を得ることができました。大会までには時間が少ないかもしれませんがしっかりと準備をして欲しいと思います。



また、吹奏楽部は6月19日（日）に岡山県中学校吹奏楽祭に参加しました。当日、会場となった倉敷市民会館に素晴らしい音色を響かせることができていました。吹奏楽部のみなさんも次の大会に向けて頑張ってください。

美作総体でもそうなのですが、試合はトーナメント方式で行われることが多いですね。1試合ごとにトーナメントの山を登ることになるのですが、その山の頂上を「優勝」といいます。「優勝」というのはこの試合で一番強かった者のことを「優しく勝った」ということになります。この頂上に登りつめた者は、その日、その山を登ろうとしたすべての選手の中で最も憂いを与えた者であり、そしてその憂いにきちんと寄り添ってきた者だということにもなります、だから表彰状に「優勝」と書かれるのです。なぜ、優勝者は寄り添うことができるのでしょうか。それは自分も負けた経験があるからです。負けたときの悔しさや悲しみを知っているから、その憂いを抱える人の気持ちがわかるのです。日本には相手を敬ったり思いやったりする国民性があります。それが日本人の心とでもいうものだと思います。（松山三四郎著・「世界の中でいちばん柔道を知らない日本人へ」より抜粋）私たちが日常の生活の中で「優勝者」になりたいですし、なる努力をしたいものです。